

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き

※ 各地域の介護予防・日常生活支援総合事業を推進する上で、本調査を活用していただくことを想定して、本手引きは作成されています。

2016年9月30日版

目次

はじめに	1
I. これまでの経緯と「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の目的	2
II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施方法	4
1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査内容	4
(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の目的	4
(2) 調査対象	5
(3) 調査項目構成	5
(4) 調査の目的と各調査項目との関係	7
2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査方法	14
(1) 調査時期	14
(2) 調査方法の考え方	15
3. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析・活用方法	26
(1) 調査結果の事業への活用プロセス例	26
(2) 調査結果の事業への活用事例	27
III. 今後の地域包括ケア「見える化」システム上の活用とデータ送付方法	28
1. 今後の地域包括ケア「見える化」システム上の活用	28
2. 地域包括ケア「見える化」システムへのデータ送付方法	29
(1) 地域包括ケア「見える化」システムへのアクセスおよび各種設定	30
(2) 地域包括ケア「見える化」システムを経由した調査結果登録	32
参考資料	36
参考資料 1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査調査票(必須項目)	36
参考資料 2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査調査票(必須項目+オプション項目)	46
参考資料 3 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査調査票(オプション項目の設問の意図)	61

はじめに

本手引きは、各地域における健康寿命の延伸に向けた効果的な介護予防の取り組みの実施に向け、またその取り組みを含む介護保険事業計画の策定・実施等に向けて活用していただきたい、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査内容と調査手法および地域包括ケア「見える化」システム上での「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の活用事例をご紹介します。

団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）を目途に、高齢者が重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、各地域で地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが推進されており、要介護状態になる前の高齢者に対する効果的な介護予防のための取り組み、つまり新しい介護予防・日常生活支援総合事業（以下、新総合事業）はこの取り組みの1つとして重視されています。市町村は新総合事業において、住民主体の活動を多様な主体の参画による多様なサービスを充実することを通じて支援し、地域の実情に応じた地域の支え合いの体制づくりを推進することにより、要支援者等に対する多様なニーズに応えていくことが求められています。

新総合事業における地域の支え合いの体制づくりとは「地域づくり」に他なりません。その方法は1つではなく、地域の抱える課題や実情に合わせて丁寧に対策を検討していく必要があります。そのためには日常生活圏域のような生活単位の実態を適切に把握し、それまでの事業評価と合わせて計画策定を行うというPDCAサイクルの視点が欠かせません。

こうした介護予防等の事業評価について、第5期および第6期介護保険事業計画においては、計画策定の際の実態把握のために「日常生活圏域ニーズ調査」が用いられていましたが、①調査項目が多く、調査対象者の高齢者にとっての調査負担が大きく、調査の対象状態が明確ではない②調査結果から日常生活圏域ごとのサービス目標設定の方法が分からない、といった指摘がありました。また、データの蓄積・共有が全国的に行われていなかったこともあり、経年的な比較や地域間の比較を行うことができませんでした。すなわち、事業評価を行う仕組みが十分には整備されておらず、ベンチマークを通じて自地域の立ち位置を把握することができませんでした。

これらの背景を踏まえ、新総合事業の評価を通じて地域課題を把握し、地域包括ケアシステムを構築していく上で有効な支援ツールとなるよう、地域包括ケア「見える化」システムの中で調査結果の経年比較、地域間比較が可能となるように、調査内容と調査手法の見直しを検討し、ここに「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」としてまとめました。

I. これまでの経緯と「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の目的

（これまでの経緯）

- 「日常生活圏域ニーズ調査」は、介護保険サービスの基盤整備や地域支援事業等の構築を進めるにあたり、高齢者の要介護度の悪化につながるリスク等を把握した上で必要なサービスの種類・量・事業方法等を検討することが重要との認識の下、地域診断のためのツールの1つとして第5期より導入されました。第6期には高齢者の社会参加に配慮した観点から調査項目の見直しが行われ、現在に至っています。

（現状と課題）

- 「日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目（第6期）の主設問数は多く、高齢者にとってかなり記入負担の大きいものでした。また、市町村によって「調査方法（使用する名簿、悉皆調査／標本調査等）が異なるため「地域間比較に資するデータになっていない。」「介護保険事業計画に活かしていない。」といった意見をいただいていた。
- さらに、団塊の世代が75歳以上となる平成37（2025）年に向け、地域包括ケアシステムを構築していくため、新しい介護予防・日常生活支援総合事業（以下、「新しい総合事業」。）を市町村が中心となって展開し、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することにより、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援等を可能とすることを目指しているところです。
- このように市町村は、新しい総合事業をはじめとする各種事業を地域の実情に合わせて運営・管理する必要が生じているため、「日常生活圏域ニーズ調査」をより有効に活用できるよう、調査内容や方法を見直すこととしました。

（変更の概要）

- これらを踏まえ、今までの「日常生活圏域ニーズ調査」の調査内容や方法を再検討し、介護予防に焦点を当てた「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を策定しました。

	日常生活圏域ニーズ調査（第6期）	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
目的	地域診断および個別介入（介護予防事業に適した高齢者の抽出）	地域診断
調査対象	特に限定なし（高齢者全般）	要介護1～5以外の高齢者
調査項目数	96問	必須項目 33問 オプション項目 30問
標準的な実施方法	解説や案内なし	「実施の手引き」の提示
見える化システムへの登録	なし	あり（標準的な実施方法により得られた必須項目への回答）

【目的】

- 「日常生活圏域ニーズ調査」は、地域の高齢者の状況を把握することで、地域課題を把握（地域診断）して地域の目標を設定すると同時に、介護予防事業に誘導すべき高齢者のスクリーニングに活用いただくことを想定していました。一方で、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」では、新しい総合事業の進捗管理や事業評価のために必要な地域診断を行うことを想定しています。

【調査項目と対象】

- 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」では、今までの「日常生活圏域ニーズ調査」で主に把握してきた要介護度の悪化につながるリスクだけでなく、生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い体制づくり、介護予防の推進等のために必要な社会資源の把握に資する必要最小限の調査項目を

設定しました。

- リスクの発生状況を把握する項目のうち、基本チェックリストの主要項目は継承し、必須項目としました。また、社会資源等を把握する項目について、新しい総合事業を勘案し、地域づくりの場への参加意向や主観的幸福感を追加しています。

【標準的な実施方法と見える化システム】

- 「日常生活圏域ニーズ調査」では、調査手法を示すツールはありませんでしたが、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」では本手引きにて、標準的な調査手法を示させていただいています。調査手法が統一化されることで、経年変化や地域間の違いを比較できるようになりました。
- さらに、調査終了後、地域包括ケア「見える化」システムへ登録、活用していただくことによって、他自治体の調査結果と容易に比較できるようになります。

（介護保険事業計画の策定への活用）

- 介護保険事業計画の策定にあたっては従来から、人口統計等を活用した要介護者数の推計に加え、保険給付の実績把握と分析、調査の実施、地域ケア会議の活用等、さまざまな方策により、地域の要介護者等の実態を把握いただくよう、お示ししてきたところです。
- この度、標準的な実施方法による「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の対象者は、基本的に介護保険サービスの受給者となる要介護者を除いた高齢者とするようされたことを踏まえ、介護保険事業計画の策定にあたっては、在宅介護実態調査の活用等により、引き続き、要介護者等の実態を把握いただきますよう、ご留意ください。
- 今後、多くの自治体が標準的な方法で調査を実施し、「見える化」システムに登録することにより、自治体同士の比較が可能となり、地域の特徴を把握しやすくなります。また、定期的に調査を実施し、データを更新することにより、地域の変化を把握しやすくなります。計画の策定期間に関わらず、多くの自治体が本調査を定期的に活用し、まちづくりにとって有意義な情報を提供し合える仕組みになることを期待しています。

（さらなる改善に向けて）

- ここに紹介させていただく介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、現在、考えられうる知見や意見を踏まえて整理いたしました。調査票や調査手法を含めて、完成されたものとは考えていません。これから自治体の皆さんに活用いただき、学術的なデータ検証や現場での活用の様子や変化を踏まえて、常に改善し続けるべきものだと考えています。
- 改善に当たっては、本調査を活用いただいた全国の自治体等からのご意見が不可欠となります。つきましては、本調査の改善に向けてお気づきの点がございましたら、下記へお寄せいただければ幸いです。なお、ご質問は、p66にあります【問合せ先】へお願いいたします。

本調査の改善に関する意見の送り先 → needs-cyousa@mhlw.go.jp

- 高齢者一人ひとりに資する地域づくりに役立つような調査や仕組みを、みなさまと作りたいと考えています。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

II. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施方法

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査内容

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の目的

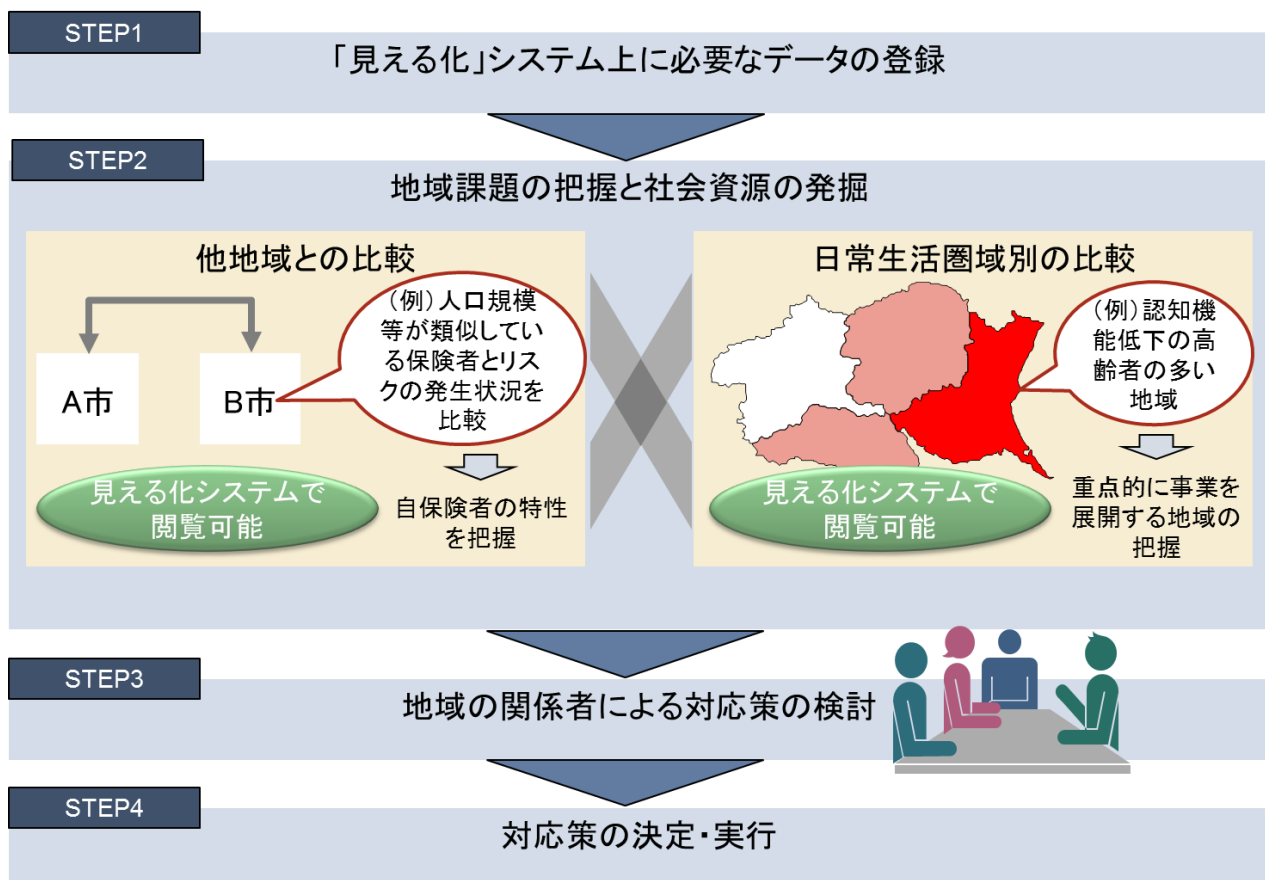
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は、要介護状態になる前の高齢者について、

- ◇ 要介護状態になるリスク（以下、各種リスク）の発生状況
- ◇ 各種リスクに影響を与える日常生活（以下、社会参加状況）の状況

を把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施します。

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果を調査終了後、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果のうち必要なデータを「見える化」システム上に登録することで、経年比較や地域間比較が可能になります。詳細は P.28 「III. 今後の地域包括ケア「見える化」システム上の活用とデータ送付方法」を参考にしてください。

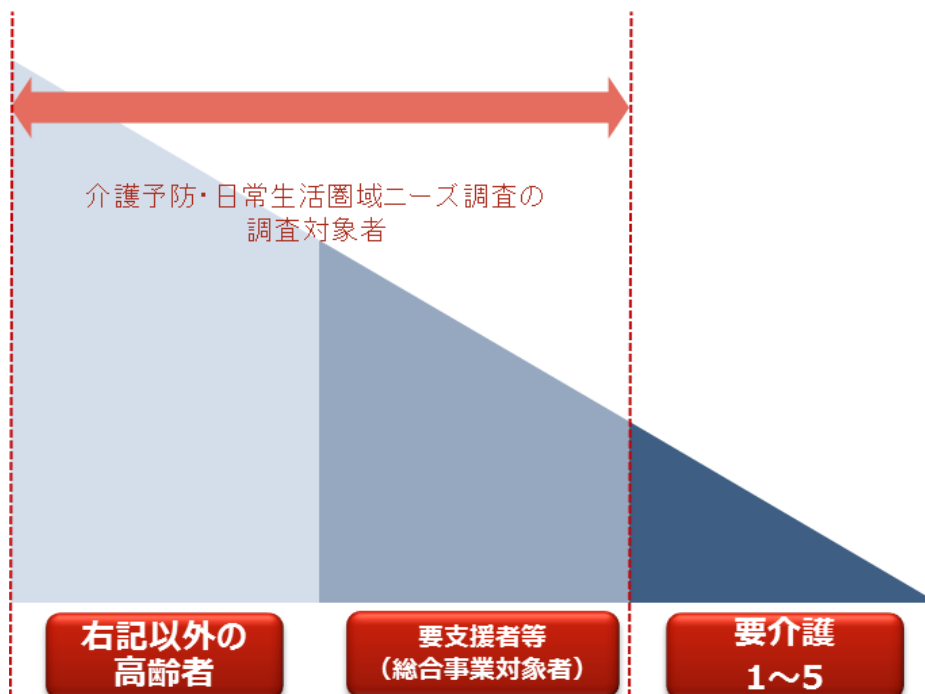
図表 II - 1 調査結果の「見える化」システム上の活用イメージ



(2) 調査対象

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査対象者は、要介護認定を受けていない高齢者（一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援者）です。

図表 II - 2 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査対象者



(3) 調査項目構成

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目は、(1)の目的を踏まえ、構成されます。具体的には、以下の必須項目とオプション項目から構成されます。

- ◇ 必須項目は、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の中で必ず実施していただくべき調査項目になります。
- ◇ オプション項目は、調査項目として設定するか否かを各市町村に判断いただく調査項目になります。

<参考>

ベンチマーク指標の評価基準としては、以下の6つの基準に考慮する必要があります。必須項目は、第5期・第6期の日常生活圏域ニーズ調査の調査項目をベースとして、有識者・市町村等の関係者から以下の6つの基準に関して情報収集を行い、検討を行った上で作成されたものですが、今後P.28「Ⅲ. 今後の地域包括ケア「見える化」システム上の活用とデータ送付方法」によりデータを全国の市町村から収集・蓄積し、分析していくプロセスで調査項目・選択肢・各種リスクの算出方法を将来的に更新する可能性があります。

(今回、調査項目・選択肢が一部削除・変更となったため、第6期の日常生活圏域ニーズ調査から把握できるリスク(虚弱・運動器機能・栄養改善・口腔機能・閉じこもり・認知症・うつ)と、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」から把握できるリスクとは、算出方法が異なります。)

正確性	指標としての信頼性と妥当性からなる。信頼性とは、市町村間信頼性、(異時点間)再現性の高さであり、妥当性は測定したい対象をとらえている度合い
内容的代表性	評価しようとする上で概念の要素の大きな部分を包含し、その概念を代表して捉えるのに相応しい度合い
社会的受容性	「社会」には、介護保険担当の行政職や施設の職員、議員やマスコミ、一般市民・国民などの立場が含まれる。その指標を用いることが受け入れられるか、その指標の意味がわかりやすいかなど、社会から広く受容されやすい度合い
学術的重要性	学術的・科学的にみて新規性があること、また介護予防に向けての機序などを学術的・科学的に考えた際の価値や重要性の度合い
介入可能性	市町村の政策決定者などの立場で考えた場合、3年程度の期間で介入により変化させることが可能であるかの度合い
入手容易性	指標作成に必要なデータ入手の容易性の度合い

(出所)
「Urban HEART の枠組みを活用した介護予防ベンチマーク指標の開発」(医療と科学.2014;24(1)35-45)

本手引きでは「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目として、必須項目とオプション項目を示していますが、この他に市町村の実情に応じて調査項目を設定していただいても構いません。

ただし、ここに示した設問文や選択肢を修正して行われた調査結果は、学術的には地域間比較に耐えられないデータになるため、地域包括ケア「見える化」システム上へ調査結果を登録することを想定する場合は必ず、参考資料1で示している調査票の設問文・選択肢を一切変えずに、調査してください。

① 必須項目

必須項目は以下の7つの設問から構成されます。(1)で示した各種リスク・社会参加の把握のために必要な調査項目となっています。

図表 II - 3 必須項目

NO	設問内容	設問数	設問内容の意図
問1	あなたのご家族や生活状況について	3	基本情報
問2	からだを動かすことについて	7	運動器機能の低下・転倒リスク・閉じこもり傾向を把握
問3	食べることについて	4	口腔機能の低下・低栄養の傾向を把握
問4	毎日の生活について	6	認知機能の低下、IADLの把握低下
問5	地域での活動について	3	ボランティア等への参加状況・今後の参加意向
問6	たすけあいについて	4	うつ傾向を把握
問7	健康について	6	知的能動性・社会的役割・社会参加の状況等を把握

② オプション項目

必須項目は、各種リスク・社会参加状況の把握のために必要な調査項目となっており、オプション項目はそれ以外の要素に着目した調査項目になっています。

図表 II - 4 オプション項目

NO	設問内容	オプション項目
問1	あなたのご家族や生活状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・介護・介助が必要になった原因 ・主な介護・介助者の状況（高齢者との関係、年齢） ・住まいの状況
問2	からだを動かすことについて	<ul style="list-style-type: none"> ・外出を控えているか否かとその理由 ・外出の際の交通手段
問3	食べることについて	<ul style="list-style-type: none"> ・むせることがあるか ・口の渇きが気になるか ・歯磨きの状況 ・噛み合わせの状況 ・入れ歯の手入れ状況 ・体重の減少
問4	毎日の生活について	<ul style="list-style-type: none"> ・電話番号を調べて電話をかけるか ・今日の日付がわからない時があるか ・年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか 等
問5	地域での活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ・町内会・自治会 ・収入のある仕事の状況
問6	たすけあいについて	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は ・友人・知人と会う頻度 ・この1か月間、何人の友人・知人と会ったか ・よく会う友人・知人との関係
問7	健康について	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒の頻度

※ 実際の調査項目は参考資料2・3を参照してください。

(4) 調査の目的と各調査項目との関係

ここでは、必須項目における設問内容の意図について解説します。

問1 あなたのご家族や生活状況について

NO	設問内容	選択肢
(1)	家族構成をお教えてください	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1人暮らし 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) 4. 息子・娘との2世帯 5. その他

この設問は、家族構成を問う設問です。高齢者の世帯状況やその地域分布を把握すること、世帯構成別の回答結果を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります（孫を含む3世帯の場合は「その他」にしてください）。

NO	設問内容	選択肢
(2)	あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか	1. 介護・介助は必要ない 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない 3. 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

この設問は、主観的な介護の必要度を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の介護の必要度を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

NO	設問内容	選択肢
(3)	現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか	1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう 4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

この設問は、主観的な経済状態を問う設問です。高齢者の経済状態やその地域分布を把握すること、経済状態別の回答結果を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

問2 からだを動かすことについて

NO	設問内容	選択肢
(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(3)	15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

この設問は、運動器の機能低下を問う設問です（この設問で3問以上、該当する選択肢（上の表の網掛け箇所）が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者になります）。運動器の機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

NO	設問内容	選択肢
(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

この設問は、転倒リスクを問う設問です（(4)で「1. 何度もある」「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者になります）。転倒リスクのある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

NO	設問内容	選択肢
(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上
(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない

この設問は、閉じこもり傾向を問う設問です（(6)で「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者になります）。閉じこもり傾向のある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

問3 食べることについて

NO	設問内容	選択肢
(1)	身長・体重	() cm () kg

この設問は、低栄養の傾向を問う設問です（身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷{身長（m）×身長（m）}）が18.5以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。）

低栄養状態を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、体重の減少傾向を把握する「6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか」も併せて確認し、2設問ともに該当した場合は、低栄養状態にある高齢者になります。

（この設問1問のみでは、地域の低栄養状態にある高齢者の把握はできませんのでご注意ください。）

低栄養状態にある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際

に活用することが可能になりますので、事業の必要量を把握する場合はオプション項目1設問を加えた2設問を実施してください。

NO	設問内容	選択肢
(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ

この設問は、口腔機能の低下のうち咀嚼機能の低下を問う設問です（(1)で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります）。

口腔機能の低下を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、嚥下機能の低下を把握する「お茶や汁物等でむせることがありますか」、肺炎発症リスクを把握する「口の渇きが気になりますか」も併せて確認し、3設問のうち2設問に該当した場合は、口腔機能の低下している高齢者になります。

（この設問1問のみでは、地域の口腔機能が低下している高齢者の把握はできませんのでご注意ください。）

口腔機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になりますので、事業の必要量を把握する場合はオプション項目2設問を加えた3設問を実施してください。

NO	設問内容	選択肢
(3)	歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。）	1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

この設問は、義歯の有無と歯数を問う設問です。高齢者の口腔の健康状態や義歯の使用状況の把握により、地域の歯科医療や口腔機能の向上に関するニーズの把握の参考になります。

NO	設問内容	選択肢
(4)	どなたかと食事をとる機会がありますか	1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある 5. ほとんどない

この設問は、孤食の状況を問う設問です。閉じこもり傾向と孤食の関係性を把握することで、地域課題（閉じこもり傾向の原因）の把握が可能になります。

問4 毎日の生活について

NO	設問内容	選択肢
(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

この設問は、認知機能の低下を問う設問です（(1)で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者になります）。認知機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

NO	設問内容	選択肢
(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4)	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(5)	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

この設問は、IADL の低下を問う設問です。IADL が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

問5 地域での活動について

NO	設問内容	選択肢
(1)	以下のような会・グループ等などのくらいの頻度で参加していますか(老人クラブ・町内会・自治会の活動をのぞきます) ※①～④それぞれに回答してください ① ボランティアのグループ ② スポーツ関係のグループやクラブ ③ 趣味関係のグループ ④ 学習・教養サークル	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない

この設問は、①～④に該当する活動への社会参加の状況を問う設問です。

NO	設問内容	選択肢
(2)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。	1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

NO	設問内容	選択肢
(2)	あなたは、現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）	とても不幸 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点 点

この設問は、主観的幸福感を問う設問です。うつ傾向との関係性も想定される、要介護状態になる前の高齢者の主観的幸福感を把握することで、地域の（精神面での）健康度のアウトカム指標として活用することが可能になります。

NO	設問内容	選択肢
(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

この設問は、うつ傾向を問う設問です（(1) (2) でいずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者になります）。うつ傾向の高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

NO	設問内容	選択肢
(5)	タバコは吸っていますか	1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた 4. もともと吸っていない

この設問は、タバコの習慣を問う設問です。高齢者の健康寿命に影響を与えると考えられる本項目と他項目との関係性を把握することで、地域の高齢者の特性把握が可能になります。

NO	設問内容	選択肢
(6)	現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）	1. ない 2. 高血圧 3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 4. 心臓病 5. 糖尿病 6. 高脂血症(脂質異常) 7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 9. 腎臓・前立腺の病気 10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等) 11. 外傷(転倒・骨折等) 12. がん(新生物) 13. 血液・免疫の病気 14. うつ病 15. 認知症(アルツハイマー病等) 16. パーキンソン病 17. 目の病気 18. 耳の病気 19. その他()

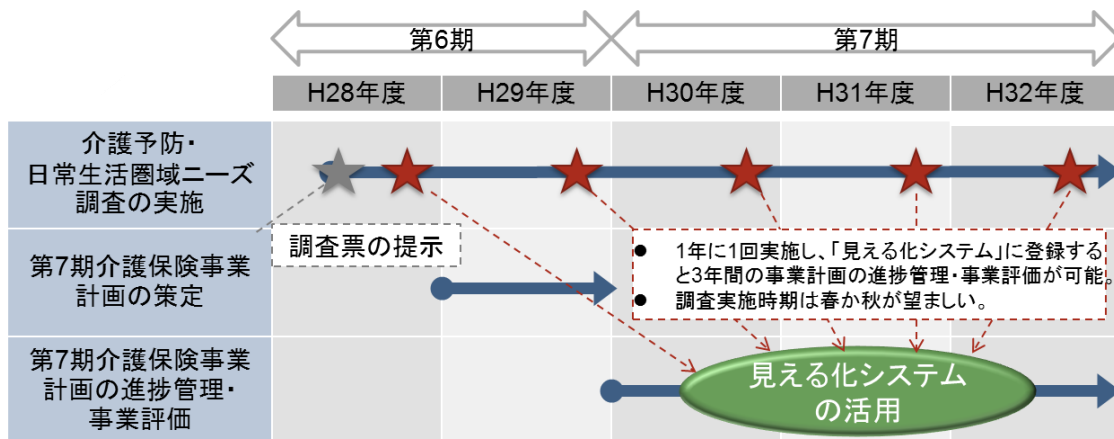
この設問は、現在治療中の病気等を問う設問です。認定を受けていない高齢者の既往を把握することで、要介護状態になる原因等の地域課題の把握が可能になります。

2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査方法

(1) 調査時期

季節によって高齢者の生活スタイル・状態に変動があるため（例：夏は閉じこもりが増える、冬は地域による転倒が増える）、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、春か秋の実施が望ましいと言えます。

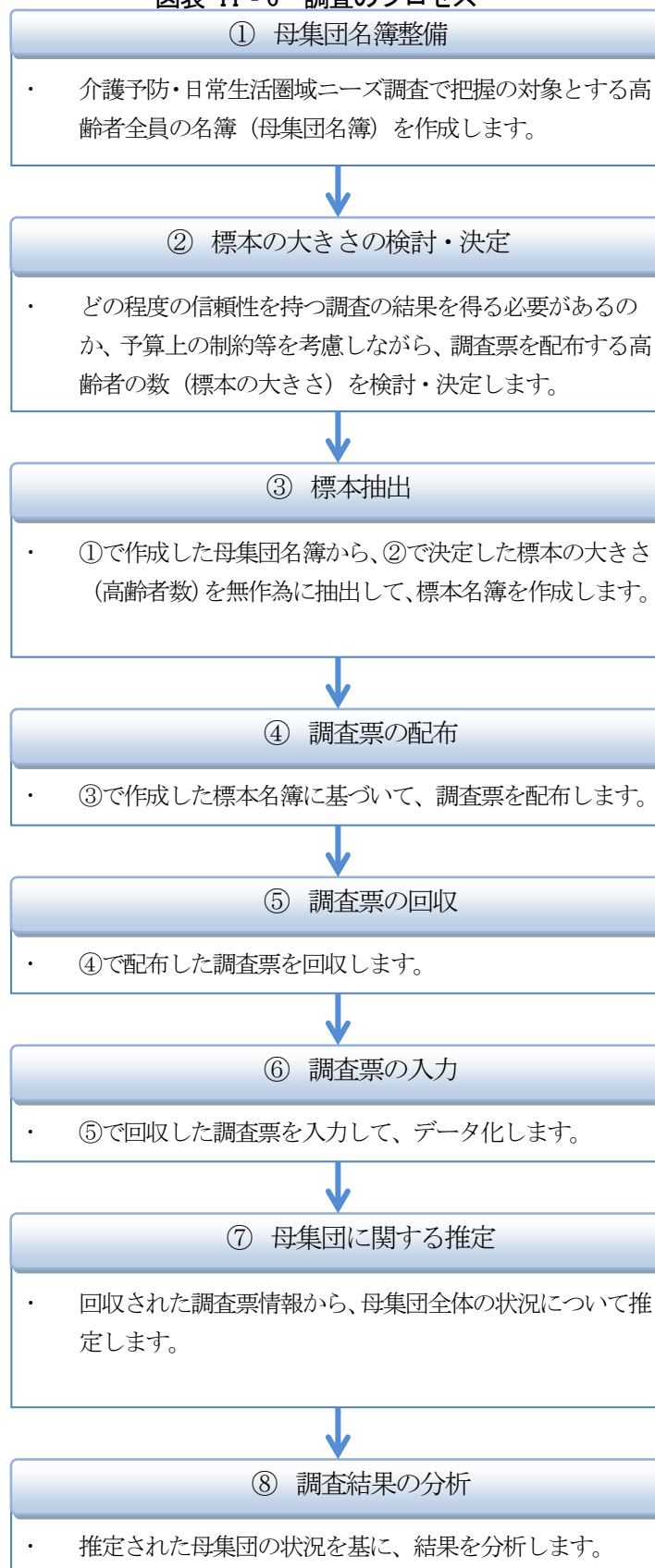
図表 II - 5 調査実施スケジュール（イメージ）



(2) 調査方法の考え方

一般的に、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のような統計調査は、次のような流れで実施します。以下では、各プロセスにおいて留意していただく内容について記述していますので、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の設計を行う際の参考としてください。

図表 II - 6 調査のプロセス



① 母集団名簿整備

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査による把握の対象とする高齢者全員（一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援者）の名簿を母集団名簿と言います。調査で把握する集団の全体を表す情報であるため、統計調査を実施するにあたっては正確な情報に基づいて作成されることが重要となります。

仮に、高齢者が1,000人いる市町村において800人分の名簿しか作成できないとすると、調査を行ったとしても名簿に含まれない200人の状況を把握することができないため、高齢者の平均的な状況を把握することは困難になります。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の母集団名簿を作成するに際しては、可能な限り正確な情報に基づいて作成するという観点からは、市町村が管理する介護保険の被保険者台帳情報を活用して母集団名簿を作成することが望ましいと考えられます。また、介護保険の被保険者台帳情報の活用が困難である場合には、住民基本台帳情報を活用することが考えられますが、介護保険の被保険者台帳情報とは適用除外施設の入所・入院者の取り扱い等の差異があること、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の対象（一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援者）をどのように特定するのか等の留意が必要です。

② 標本の大きさの検討・決定

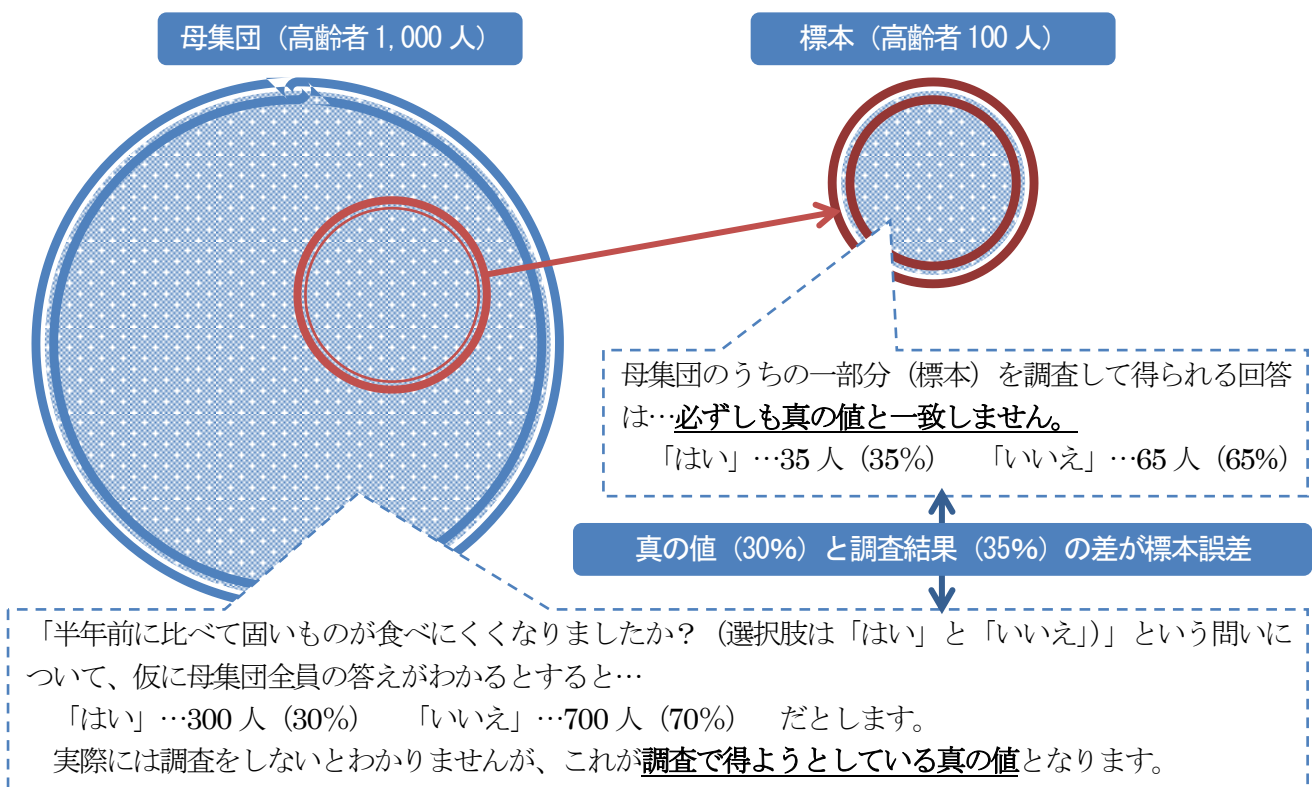
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、把握の対象とする高齢者全員（母集団）に調査票を配布する方法（悉皆調査）、または母集団のうち一部に調査票を配布する方法（標本調査）のいずれかで実施してください。

ここでは、標本調査で実施する場合の、調査票を配布する高齢者の数（標本の大きさ）を検討するための考え方について紹介します。標本の大きさの検討は主として「どの程度の信頼性を持つ調査の結果を得る必要があるか」を考慮することになりますが、予算上の制約等も考慮して、調査結果の信頼性ととのバランスに配慮して決定してください。

(a) 標本調査の考え方

標本調査では、母集団の一部を調査した結果から、母集団全体の状況を推定することになるため、得られる結果には誤差（標本誤差）が含まれます。

図表 II - 7 標本調査の考え方



(b) 標本の大きさと標本誤差の関係

一般に、標本の大きさが大きいほど信頼性の高い（標本誤差が小さい）調査結果を得ることができます。標本の大きさと信頼性（標本誤差）との関係は、概ね以下のような関係になります。表中の値は、もし仮に母集団の全員を調査した場合に得られる結果（真の値）が、標本調査で得られる結果に対して、どの程度の範囲にあると推定されるかを示しています。

例えば、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか？」という設問について、50%の高齢者が「はい」と回答したとします。調査に回答した高齢者の数（標本の大きさ）が100人であれば概ね40.2%～59.8%の範囲に真の値があり、600人であれば概ね46.0%～54.0%の範囲に真の値があると推定できます。

図表 II - 8 標本の大きさと標本誤差（%ポイント）の関係

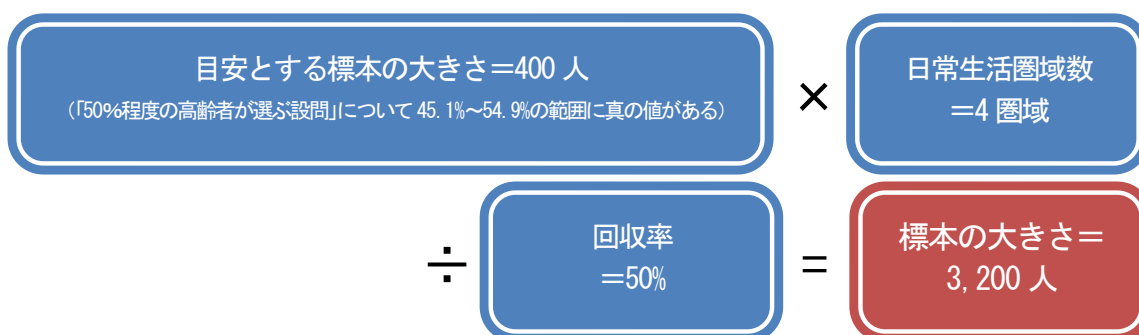
標本の大きさ	10%程度の高齢者が選ぶ設問	30%程度の高齢者が選ぶ設問	50%程度の高齢者が選ぶ設問
100	5.9%	9.0%	9.8%
200	4.2%	6.4%	6.9%
300	3.4%	5.2%	5.7%
400	2.9%	4.5%	4.9%
500	2.6%	4.0%	4.4%
600	2.4%	3.7%	4.0%

(c) 標本の大きさの検討例

調査全体の標本の大きさの検討に際しては、「調査結果をどのような区分で分析したいか」と「回収率がどの程度か」とを想定する必要があります。ここでお示しする検討例は目安です。予算上の制約等も考慮した上で、現実的な標本の大きさを設定してください。

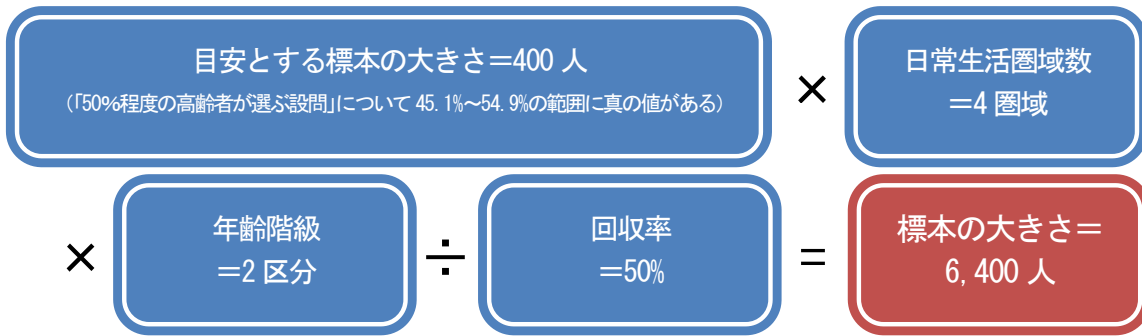
(例1) 日常生活圏域別に分析する場合

仮に日常生活圏域が4圏域ある市町村の場合で、調査の回収率を50%と想定した場合には、以下のように標本の大きさを算出します。



(例2) 日常生活圏域別、年齢階級別に分析する場合

仮に日常生活圏域が4圏域ある市町村の場合で、年齢階級を前期高齢者と後期高齢者の2区分、調査の回収率を50%と想定した場合には、以下のように標本の大きさを算出します。



③ 標本抽出

作成した母集団名簿から、決定した標本の大きさ分の高齢者を無作為に抽出して標本名簿を作成します。母集団名簿から高齢者を無作為に抽出する一般的な方法としては「単純無作為抽出法」と「層化無作為抽出法」があります。

図表 II - 9 単純無作為抽出法と層化無作為抽出法

	単純無作為抽出法	層化無作為抽出法
概要	<ul style="list-style-type: none"> 母集団名簿全体から標本の大きさ分の高齢者を無作為に抽出する方法 	<ul style="list-style-type: none"> 母集団名簿をいくつかの属性に区分し、属性の区分(層)ごとに標本の大きさ分の高齢者を無作為に抽出する方法
長所・短所	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手間が少なく簡便に実施することができる。 <p>【短所】</p> <ul style="list-style-type: none"> (層化無作為抽出法と比較して)信頼性の面で多少劣る。 特定の属性(例えば、後期高齢者等)について詳細に把握したいなどの目的には向かない。 	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> (単純無作為抽出法と比較して)信頼性の面で多少優れる。 特定の属性(例えば、後期高齢者等)について詳細に把握したいなどの目的に向く。 <p>【短所】</p> <ul style="list-style-type: none"> (単純無作為抽出法と比較して)実施に手間がかかる。

(a) 単純無作為抽出法

単純無作為抽出法は、母集団名簿全体から標本の大きさ分の高齢者を無作為に抽出する方法です。無作為に高齢者を抽出する簡便な手順の例としては、以下のような手順があります。

【15人の高齢者が記載された母集団名簿から5人の高齢者を標本として抽出する例】

- 【手順1】母集団名簿の高齢者1人1人に乱数を与えます。¹

母集団名簿に記載されている項目

乱数を与える
※Excelでは「=RAND()」と入力する

No.	被保険者番号	被保険者名	住所	...	乱数
1	xxxxxxxx1	Aさん	**県**市*****	...	0.805901
2	xxxxxxxx2	Bさん	**県**市*****	...	0.182715
3	xxxxxxxx3	Cさん	**県**市*****	...	0.654282
4	xxxxxxxx4	Dさん	**県**市*****	...	0.415761
5	xxxxxxxx5	Eさん	**県**市*****	...	0.031246
6	xxxxxxxx6	Fさん	**県**市*****	...	0.068696
7	xxxxxxxx7	Gさん	**県**市*****	...	0.682102
8	xxxxxxxx8	Hさん	**県**市*****	...	0.418474
9	xxxxxxxx9	Iさん	**県**市*****	...	0.831235
10	xxxxxxxx10	Jさん	**県**市*****	...	0.995852
11	xxxxxxxx11	Kさん	**県**市*****	...	0.878236
12	xxxxxxxx12	Lさん	**県**市*****	...	0.027928
13	xxxxxxxx13	Mさん	**県**市*****	...	0.614166
14	xxxxxxxx14	Nさん	**県**市*****	...	0.453138
15	xxxxxxxx15	Oさん	**県**市*****	...	0.596294

- 【手順2】与えた乱数の昇順（又は降順）で母集団名簿を並び替えます。

乱数で昇順（又は降順）に並び替えると無作為な順となる

No.	被保険者番号	被保険者名	住所	...	乱数
12	xxxxxxxx12	Lさん	**県**市*****	...	0.027928
5	xxxxxxxx5	Eさん	**県**市*****	...	0.031246
6	xxxxxxxx6	Fさん	**県**市*****	...	0.068696
2	xxxxxxxx2	Bさん	**県**市*****	...	0.182715
4	xxxxxxxx4	Dさん	**県**市*****	...	0.415761
8	xxxxxxxx8	Hさん	**県**市*****	...	0.418474
14	xxxxxxxx14	Nさん	**県**市*****	...	0.453138
15	xxxxxxxx15	Oさん	**県**市*****	...	0.596294
13	xxxxxxxx13	Mさん	**県**市*****	...	0.614166
3	xxxxxxxx3	Cさん	**県**市*****	...	0.654282
7	xxxxxxxx7	Gさん	**県**市*****	...	0.682102
1	xxxxxxxx1	Aさん	**県**市*****	...	0.805901
9	xxxxxxxx9	Iさん	**県**市*****	...	0.831235
11	xxxxxxxx11	Kさん	**県**市*****	...	0.878236
10	xxxxxxxx10	Jさん	**県**市*****	...	0.995852

¹ Excel では、与えた乱数をコピーして値で張り付けておくと乱数の値が変わらなくなるため、以降の手順を実施する際に混乱しなくなります。

・ 【手順3】 並べ替えた母集団名簿の先頭から標本数分の高齢者を抜き出して標本名簿とします。

No.	被保険者番号	被保険者名	住所	...	乱数
12	xxxxxxxx12	Lさん	**県**市*****	...	0.027928
5	xxxxxxxx5	Eさん	**県**市*****	...	0.031246
6	xxxxxxxx6	Fさん	**県**市*****	...	0.068696
2	xxxxxxxx2	Bさん	**県**市*****	...	0.182715
4	xxxxxxxx4	Dさん	**県**市*****	...	0.415761
8	xxxxxxxx8	Hさん	**県**市*****	...	0.418474
14	xxxxxxxx14	Nさん	**県**市*****	...	0.453138
15	xxxxxxxx15	Oさん	**県**市*****	...	0.596294
13	xxxxxxxx13	Mさん	**県**市*****	...	0.614166
3	xxxxxxxx3	Cさん	**県**市*****	...	0.654282
7	xxxxxxxx7	Gさん	**県**市*****	...	0.682102
1	xxxxxxxx1	Aさん	**県**市*****	...	0.805901
9	xxxxxxxx9	Iさん	**県**市*****	...	0.831235
11	xxxxxxxx11	Kさん	**県**市*****	...	0.878236
10	xxxxxxxx10	Jさん	**県**市*****	...	0.995852

上から5人を選択すると
無作為に5人を抽出できる

(b) 層化無作為抽出法

層化無作為抽出法は、母集団名簿をいくつかの属性に区分し、属性の区分（層）ごとに標本の大きさ分の高齢者を無作為に抽出する方法です。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、以下の属性の組み合わせで、層を設定してください。

属性	区分（層）
日常生活圏域	市町村が設定している日常生活圏域の区分に基づいて、高齢者が調査時点で居住している日常生活圏域を設定してください。 ²
性別	高齢者の「男性」「女性」の別を設定してください。
年齢	高齢者の調査時点における年齢に基づいて、以下のいずれかの区分を設定してください。 【2区分】 ：「前期高齢者（65歳～74歳）」「後期高齢者（75歳以上）」 【8区分】 ：「65歳～69歳」「70歳～74歳」「75歳～79歳」「80歳～84歳」「85歳～89歳」「90歳～94歳」「95歳～99歳」「100歳以上」
要介護度	高齢者の調査時点における要介護度に基づいて、「一般高齢者」「介護予防・日常生活支援総合事業対象者」「要支援1」「要支援2」の別を設定してください。

無作為に高齢者を抽出する簡便な手順は単純無作為抽出法と同様ですが、以下に示す例のように、必ず設定した属性の区分（層）ごとに抽出を行います。

² 地域包括ケア「見える化」システムを活用して、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析を行っていただくためには、あらかじめ地域包括ケア「見える化」システムにも日常生活圏域の情報を登録していただく必要があります。登録の手順の詳細については、地域包括ケア「見える化」システム 利用マニュアル【システム操作編】を参照してください。

【15人の高齢者が記載された母集団名簿を日常生活圏域で2層（層①、層②）に区分し、層①から3人の高齢者、層②から2人の高齢者を標本として抽出する例】

【手順1】母集団名簿の高齢者1人1人に乱数を与えます。³

母集団名簿に記載されている項目

乱数を与える
 ※Excelでは「=RAND()」と入力する

No.	被保険者番号	被保険者名	日常生活圏域	住所	...	乱数
1	xxxxxxxx1	Aさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.805901
2	xxxxxxxx2	Bさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.182715
3	xxxxxxxx3	Cさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.654282
4	xxxxxxxx4	Dさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.415761
5	xxxxxxxx5	Eさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.031246
6	xxxxxxxx6	Fさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.068696
7	xxxxxxxx7	Gさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.682102
8	xxxxxxxx8	Hさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.418474
9	xxxxxxxx9	Iさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.831235
10	xxxxxxxx10	Jさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.995852
11	xxxxxxxx11	Kさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.878236
12	xxxxxxxx12	Lさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.027928
13	xxxxxxxx13	Mさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.614166
14	xxxxxxxx14	Nさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.453138
15	xxxxxxxx15	Oさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.596294

層①

層②

【手順2】層ごとに与えた乱数の昇順（又は降順）で母集団名簿を並び替えます。

乱数で層ごとに昇順(又は降順)に並び替えると無作為な順となる

No.	被保険者番号	被保険者名	日常生活圏域	住所	...	乱数
5	xxxxxxxx5	Eさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.031246
6	xxxxxxxx6	Fさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.068696
2	xxxxxxxx2	Bさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.182715
4	xxxxxxxx4	Dさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.415761
8	xxxxxxxx8	Hさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.418474
3	xxxxxxxx3	Cさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.654282
7	xxxxxxxx7	Gさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.682102
1	xxxxxxxx1	Aさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.805901
12	xxxxxxxx12	Lさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.027928
14	xxxxxxxx14	Nさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.453138
15	xxxxxxxx15	Oさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.596294
13	xxxxxxxx13	Mさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.614166
9	xxxxxxxx9	Iさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.831235
11	xxxxxxxx11	Kさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.878236
10	xxxxxxxx10	Jさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.995852

層①

層②

³ Excel では、与えた乱数をコピーして値で張り付けておくと乱数の値が変わらなくなるため、以降の手順を実施する際に混乱しなくなります。

- ・ 【手順3】層ごとに並べ替えた母集団名簿の先頭から標本の大きさ分の高齢者を抜き出して標本名簿とします。

No.	被保険者番号	被保険者名		住所	...	乱数
5	xxxxxxxxx5	Eさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.031246
6	xxxxxxxxx6	Fさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.068696
2	xxxxxxxxx2	Bさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.182715
4	xxxxxxxxx4	Dさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.415761
8	xxxxxxxxx8	Hさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.418474
3	xxxxxxxxx3	Cさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.654282
7	xxxxxxxxx7	Gさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.682102
1	xxxxxxxxx1	Aさん	AA圏域	**県**市*****	...	0.805901
12	xxxxxxxxx12	Lさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.027928
14	xxxxxxxxx14	Nさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.453138
15	xxxxxxxxx15	Oさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.596294
13	xxxxxxxxx13	Mさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.614166
9	xxxxxxxxx9	Iさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.831235
11	xxxxxxxxx11	Kさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.878236
10	xxxxxxxxx10	Jさん	BB圏域	**県**市*****	...	0.995852

上から3人を選択すると層①から無作為に3人を抽出できる

上から2人を選択すると層②から無作為に2人を抽出できる

④ 調査票の配布

作成した標本名簿に基づいて調査票を配布します。一般的な調査票の配布方法には、「調査員等が訪問によって配布する方法」と「郵送によって配布する方法」があります。配布方法は、市町村の事情によって適切な手法を選択していただいて構いませんが、他地域との比較の観点から、郵送調査を原則としてください。調査票の表紙に「郵送調査」か「訪問調査」かを選択する欄を設け、調査手法を管理するようにしてください。

なお、調査票の配布に際しては、調査票の回収後に標本名簿と照合可能な形式で配布することが重要です。

(a) 標本名簿との照合の必要性について

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査項目は、標本名簿から取得可能と考えられる高齢者の基本的な属性（居住している日常生活圏域、性別、年齢等）について、調査で把握するのではなく標本名簿から取得することを前提として設計されています。そのため、調査票の回答結果は標本名簿と照合できるようにしておく必要があります。

調査票の回答結果を標本名簿と照合できるようにしておく方法には、以下のような例があります。

方法（例）

無記名式による調査

- ・ 標本となった高齢者に連番等の一意の番号を付与し、当該番号を調査票表紙の余白等に印字することで、調査票と標本名簿とを照合可能とする。

記名式による調査

- ・ 調査票にあて名ラベルを貼り付けて、そこに連番等の一意の番号を印字しておく、
- ・ 記入者に被保険者番号、名前等を記入してもらうことで、調査票と標本名簿とを照合可能とする。

標本となった高齢者が後に要介護認定を受けたかどうか等、介護予防の取組の効果を調査後に検証することを想定している場合、上記のような調査票と標本名簿とを照合可能にしておく工夫が望ましいと言えます。

(b) 標本名簿と照合できない形式で配布する場合の留意点

市町村の事情によって、標本名簿と照合可能な形式で調査票を配布することが困難である場合には、以下の点について留意をしてください。

【留意点①】 高齢者の基本的な属性を調査項目に加える

- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査項目では把握していない、住所、性別、年齢、要介護状態区分（介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援1、要支援2、その他）の調査結果の分析に必要な基本的な属性について、調査項目に加えてください。

【留意点②】（層化無作為抽出法の場合）層別の回収率を把握できるようにする

- ・ 層化無作為抽出法によって標本抽出を行った場合には、少なくとも層別に回収率が把握できるようにしておく必要があります。
- ・ そのため、設定した層に番号を付与し、あらかじめ調査票に当該番号を印字しておくなど、最低限どの層の標本が何票回収されたのかが管理できるようにしてください。

なお、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査項目は、高齢者に関する機微な情報を取得する調査項目となっていますので、実施に際しては、個人情報の取り扱いについて、十分な周知・配慮をお願いします。詳しくは P.35 を参照してください。

⑤ 調査票の回収

層化無作為抽出法によって標本抽出を行った場合には、必ず、層別に回収率を管理してください。また、調査票の回収が得られない層や、著しく回収率の低い層があると調査結果の信頼性に影響するため、できる限りどの層も回収率の向上に努めてください。

⑥ 調査票の入力

回収した調査票の回答結果を入力してデータ化します。データ化に際しては、P.29「2. 地域包括ケア「見える化」システムへのデータ送付方法」を参照し、別途配布予定の入力レイアウトに従って入力してください。正しい調査結果を取得するために、入力作業を委託する場合は、個人情報の取扱い、入力内容の確認等について定めたうえで、契約をするようにしてください。

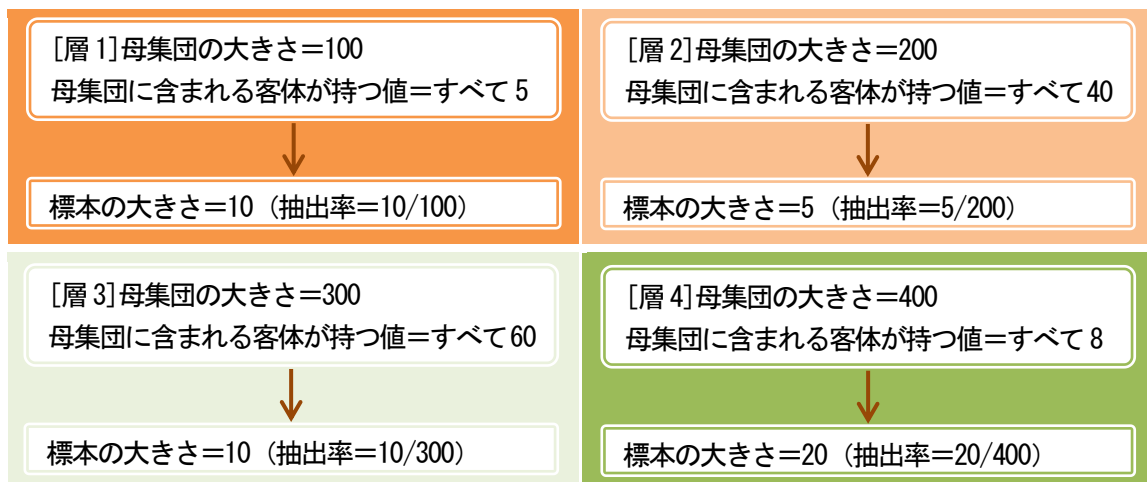
⑦ 母集団に関する推定

(a) 母集団に関する推定とは

一般に、調査の回答が得られた高齢者（標本）の平均値が調査で把握の対象とする高齢者全員（母集団）の平均値と一致するとは限りません。

例えば、以下のように母集団を4つの層に区分した層化無作為抽出法によって調査を行った場合には、標本の平均値は母集団の平均値を偏りなく推定した適切な推定値とは言えません。これは、各層の抽出率が異なることの影響を受けているためです。そこで、抽出率の逆数で加重平均すると影響を排除することができるため標本の回答から母集団の平均値を偏りなく適切に推定することができるようになります。⁴

図表 II - 10 母集団に関する推定の例



母集団の平均値 (真の値)

$$= \{ (\text{層 1}) 100 \times 5 + (\text{層 2}) 200 \times 40 + (\text{層 3}) 300 \times 60 + (\text{層 4}) 400 \times 8 \} \\ \div (100 + 200 + 300 + 400) = \mathbf{29.7}$$

標本の平均値 (算術平均)

$$= \{ (\text{層 1}) 10 \times 5 + (\text{層 2}) 5 \times 40 + (\text{層 3}) 10 \times 60 + (\text{層 4}) 20 \times 8 \} \div (10 + 5 + 10 + 20) \\ \div \mathbf{22.4} \quad \rightarrow \text{標本の平均値は偏った推定値になる}$$

母集団の平均値 (推定値)

$$= \{ (\text{層 1}) (100/10) \times (10 \times 5) + (\text{層 2}) (200/5) \times (5 \times 40) + (\text{層 3}) (300/10) \times \\ (10 \times 60) + (\text{層 4}) (400/20) \times (20 \times 8) \} \div (100 + 200 + 300 + 400) \\ = \mathbf{29.7} \quad \rightarrow \text{抽出率の逆数を考慮することで偏りのない推定値になる}$$

このように、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で把握の対象とする高齢者全員（母集団）の平均的な状況を把握するためには、調査の回答が得られた高齢者（標本）の回答内容から適切な計算方法で、推定する必要があります。

⁴ この例では真の値と推定値が一致していますが、真の値と推定値は必ずしも一致するわけではありません。

(b) 母集団の推定方法

上記の例のような母集団の推定方法を一般的な数式で表現すると、以下のようになります。

【単純無作為抽出法の場合】

母集団の平均値（推定値）

$$= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$$

n : 標本の大きさ

X_i : i 番目の標本の値

【層化無作為抽出法の場合】

母集団の平均値（推定値）

$$= \frac{1}{N} \sum_{h=1}^L \frac{N_h}{n_h} \sum_{i=1}^{n_h} X_{hi}$$

N : 母集団の大きさ

L : 設定した層の数

N_h : h 番目の層における母集団の大きさ

n_h : h 番目の層における標本の大きさ

X_{hi} : h 番目の層における i 番目の標本の値

これらの推定方法による推定結果は、地域包括ケア「見える化」システムを活用していただくことによっても、取得していただくことができます。

地域包括ケア「見える化」システムを活用して介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果を分析していただくためには、あらかじめ地域包括ケア「見える化」システムにも調査設計の情報を登録していただく必要があります。登録の手順の詳細については、地域包括ケア「見える化」システム 利用マニュアル【システム管理編】を参照してください。

3. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析・活用方法

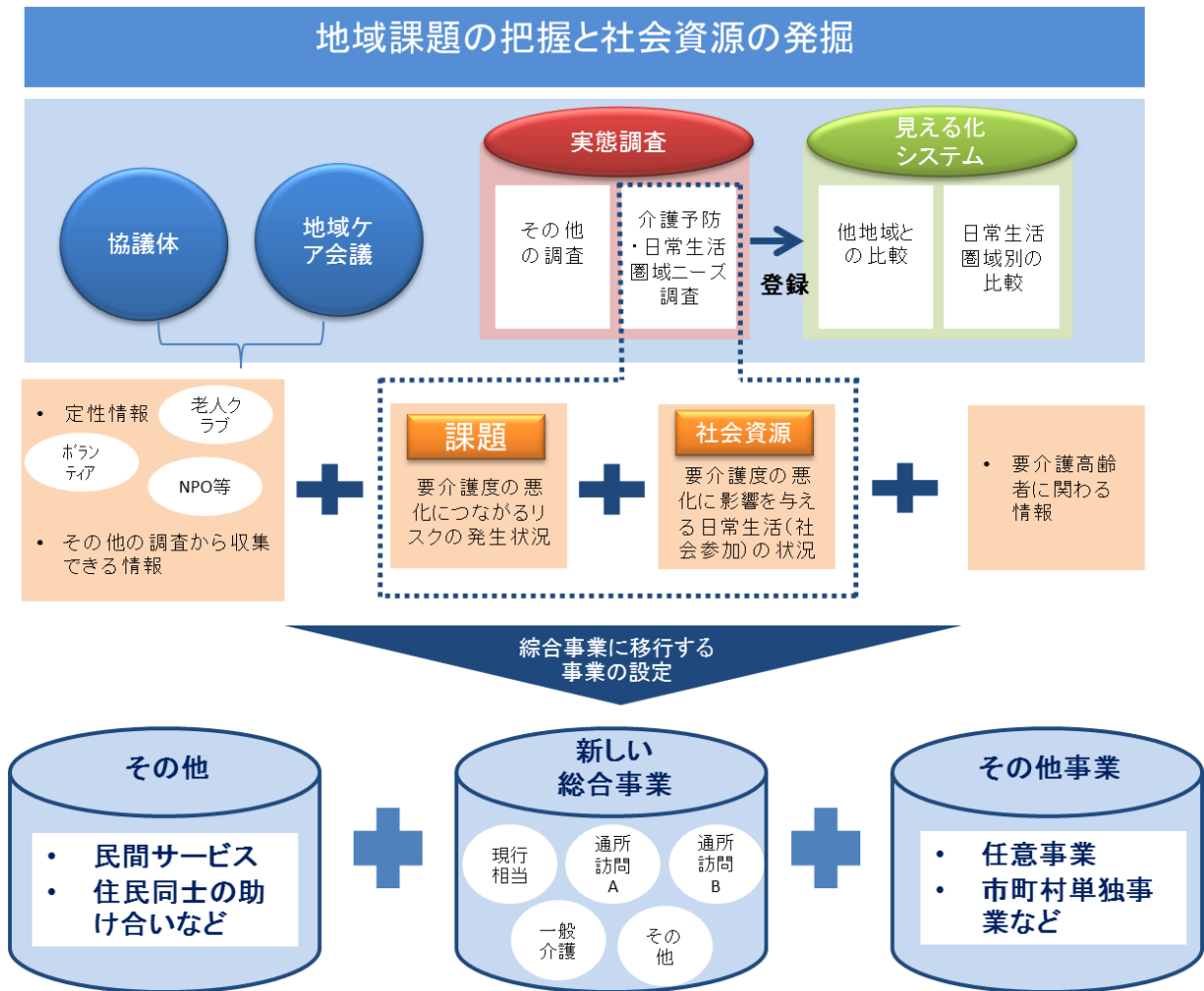
(1) 調査結果の事業への活用プロセス例

ここでは、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析結果を、各市町村で実施する事業にどのように活用するか、その活用プロセス例をご紹介します。

地域課題の把握と社会資源の発掘のための情報源としては、本手引きで紹介している介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の他に、要介護高齢者向けの実態調査、P.28 に示すような「見える化」システム内の現状分析指標などがあります。また介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は調査終了後にデータを登録していただくことで、「見える化」システムの中で、経年比較、地域間比較することが可能です。

これらの情報を収集・分析した後、地域課題を特定し、また社会資源を整理・確認しましょう。社会資源については、例えば「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」で必須項目として設定している「ボランティアへの参加意向（問5（2）」の結果の活用も有効ですが、その他、地域にあるNPO・ボランティア団体の活動、老人クラブ・自治会の活動、社会教育（生涯活動や生涯スポーツ）なども考えられます。介護保険事業だけでなく、民間サービスも含めた多種多様な主体の活動の把握が大切です。

図表 II - 11 活用プロセス例



その後、介護保険事業計画策定委員会も含めた様々な高齢者施策の検討の場や、地域ケア会議、協議体などの場において、対応策や事業を検討することになります。ここでは、個別事例から積み上げた質的な情報や地域での有効な取り組みなどを地域課題として検討する際、人口動態や社会資源、認定率や給付実績等と合わせて、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査に関連する情報も活用することが可能です。

(2) 調査結果の事業への活用事例

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の地域課題の把握と社会資源の発掘のための情報源を具体的にどのように活用したらよいかについては先進事例を参考にしましょう。地域包括ケア「見える化」システム上には、厚生労働省で実施している様々な事業から抽出した先進事例を掲載しています。

図表 II - 12 調査結果の事業への活用事例

The screenshot displays the 'Mieruka' system interface. The search results are filtered for '介護予防' (Nursing Prevention), showing 9/66 items. A popup window is open over the first result, '地域の実情に応じた効果的・効率的な介護予防の取組事例' (Effective and efficient nursing prevention measures according to local conditions) from Osaka City. The popup text reads:

自治会、老人クラブ、校区福祉委員会、自主グループ等の地域団体が担い手となり、市内在住の高齢者を集め、大東市オリジナルの「大東元気であせ体操」(鍵口体操)等を実施している。
 地域主体の介護予防の拠点をつくることは、高齢者の活動性を高め、虚弱化を防止することにつながっている。

【タグ】
 虚弱高齢者、元氣高齢者、地域見守り、大東元気であせ体操、鍵口体操、介護予防、介護予防サポーター、介護予防サポーターズ
 テップアップ講座

Buttons for 'ダウンロード' (Download) and '閉じる' (Close) are visible at the bottom of the popup.

III. 今後の地域包括ケア「見える化」システム上の活用とデータ送付方法

1. 今後の地域包括ケア「見える化」システム上の活用

平成27年度末時点において、地域包括ケア「見える化」システムの現状分析機能では、認定率や給付等の介護保険に関する主要指標が閲覧可能ですが、利用するデータソースの限界から、日常生活圏域別に閲覧できる指標は主に「人口」や「世帯」に関する指標に限られています。

図表 III - 1 平成27年度末時点において地域包括ケア「見える化」システムで閲覧可能な現状分析指標

指標ID	区分	指標名	リリース対象の指標			日常生活圏域別の表示	データソース
			1.0次	1.3次	1.5次		
P1-P4	ポータル	人口の推移、認定者数・認定率の推移、介護費用額の推移、保険料額の推移	○				国勢調査・社人研将来推計・介護保険事業状況報告・保険者からの報告値
A1-A2	現状分析	総人口、高齢化率	○			○	国勢調査・社人研将来推計
A3-A4	現状分析	前期・後期別高齢者数/割合、高齢者の年齢構成（5歳階級別）	○			○	国勢調査・社人研将来推計
A5-A8	現状分析	一般世帯数、高齢者を含む世帯数/割合、高齢独居世帯数/割合、高齢夫婦世帯数/割合	○			○	国勢調査・社人研将来推計
B1	現状分析	第1号被保険者数		○			介護保険事業状況報告
B2	現状分析	前期・後期別第1号被保険者数/割合		○			介護保険事業状況報告
B3-B4	現状分析	要支援・要介護認定者数（要介護度別）・認定率（要介護度別）		○			介護保険事業状況報告
B5-B6	現状分析	調整済み認定率（要介護度別）・調整済み重度認定率と調整済み軽度認定率の分布					住民基本台帳・介護保険事業状況報告
C1	現状分析	第1号被保険者1人あたり保険給付月額・第1号保険料月額・必要保険料月額		○			介護保険事業状況報告・保険者からの報告値
D1	現状分析	施設・居住系・在宅受給者数		○			介護保険事業状況報告
D2-D4	現状分析	受給率（施設・居住系・在宅サービス）（要介護度別）			○		介護保険事業状況報告
D5他	現状分析	第1号被保険者1人あたり給付月額		○			介護保険事業状況報告
D8他	現状分析	調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額					総合DB内レセプトデータ・住民基本台帳
D15-D17	現状分析	受給者1人あたり給付月額（要介護度別）			○		介護保険事業状況報告
D18	現状分析	居宅サービス給付単位数分布（要介護度別）					総合DB内レセプトデータ
D25-D27	現状分析	定員（施設サービス別）				○	介護サービス情報公表システム
D28-D30	現状分析	要支援・要介護者1人あたり定員					介護サービス情報公表システム・介護保険事業状況報告
D31	現状分析	受給者1人あたり利用日数・回数（サービス種類別）			○		介護保険事業状況報告
D32	現状分析	受給率（サービス種類別）			○		介護保険事業状況報告
F1	現状分析	週1回以上の通いの場の参加率			○		介護予防事業及び介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査
G1-G2	現状分析	後期高齢者1人あたり医療費			○		後期高齢者医療事業状況報告
G5	現状分析	受療率（年齢階級別）			○		患者調査

新しい総合事業の取り組みの検討に資するよう、現在閲覧可能な「F1 週1回以上の通いの場の参加率」以外にも、今後、新しい総合事業に関する指標等も順次追加されていく見込みです。これらと介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果を併用することで、最終的に、「市町村内の高齢者のリスクの状態」と「自市町村内で行われている新しい総合事業の取り組み実績」との関係性を評価することが可能となります。

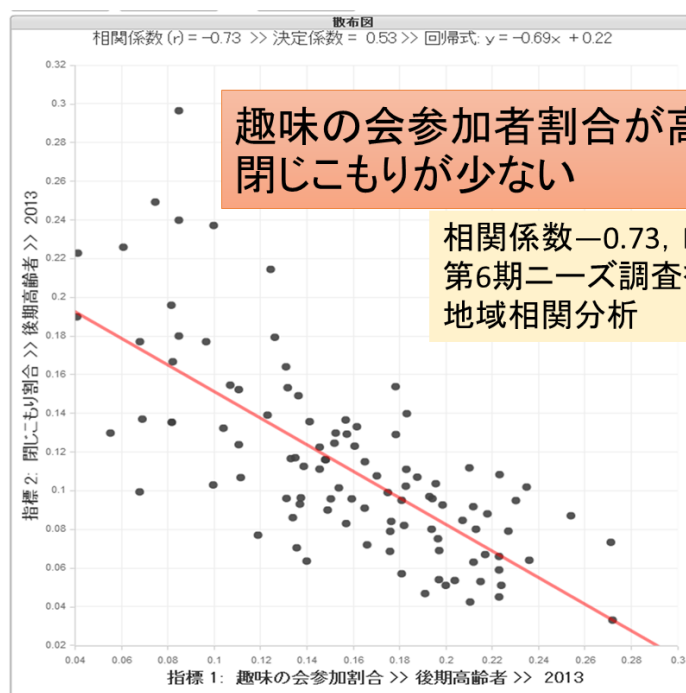
図表 III - 2 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果を用いた分析イメージ

閉じこもりと趣味の会参加者割合

後期高齢者

厚生労働科学研究補助金(H25-長寿-一般-003)研究班

JAGES HEART 2014



http://www.yobou_bm.umin.jp/200bm/shichoson_compare/double/atlas.html

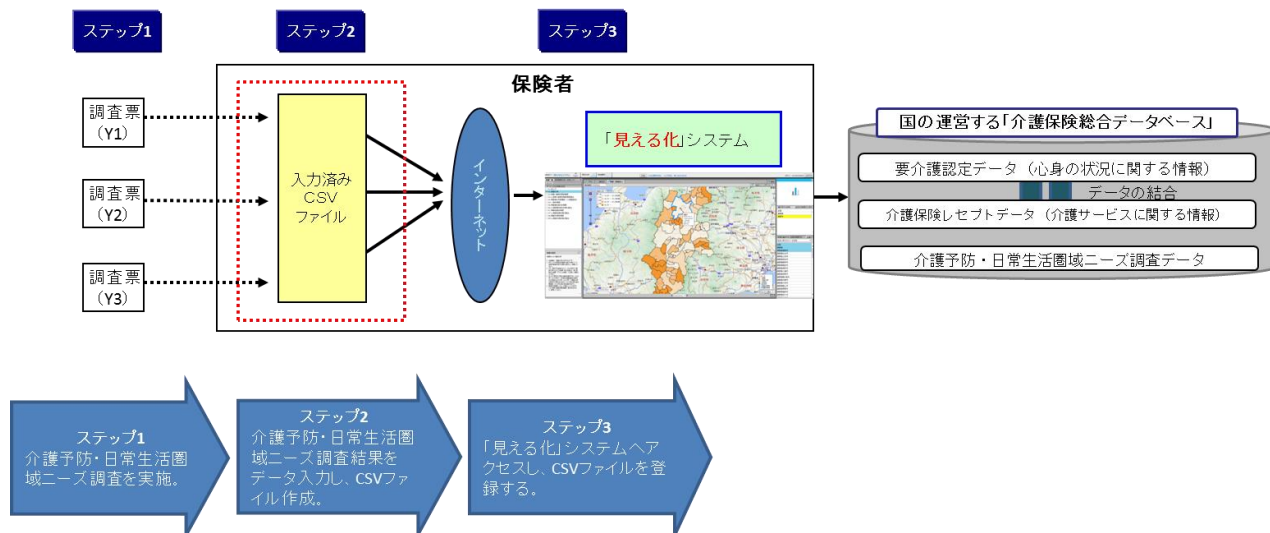
ただし上記の効果を評価するには、両指標ともに経年の変化を捉える必要がありますので、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果を継続的に地域包括ケア「見える化」システムへデータを登録することが必要となります。

2. 地域包括ケア「見える化」システムへのデータ送付方法

第6期介護保険事業計画に向けた日常生活圏域ニーズ調査実施時においては、地域診断支援情報送信ソフトを用いたデータ送付を市町村の皆様にご依頼しました。今回の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施にあたっては、別途提示予定の「データ送信用ファイル 入力仕様書」に従って、調査結果を入力した CSV ファイルを作成した上で、その CSV ファイルを地域包括ケア「見える化」システム経由で登録してください。詳しい手順は本章を参照してください。

ただし、本手引きで示した設問文や選択肢を修正して行われた調査結果は、学術的には地域間比較に耐えられないデータになります。他の自治体が地域間比較をする際の支障となるため、本手引きに示している調査票の設問文・選択肢を少しでも修正して実施した調査の結果は、「見える化」システム上へ登録しないでください。

図表 III - 3 地域包括ケア「見える化」システムへのデータ送付方法



(1) 地域包括ケア「見える化」システムへのアクセスおよび各種設定

地域包括ケア「見える化」システムには、<http://mieruka.mhlw.go.jp/>よりアクセス可能です。

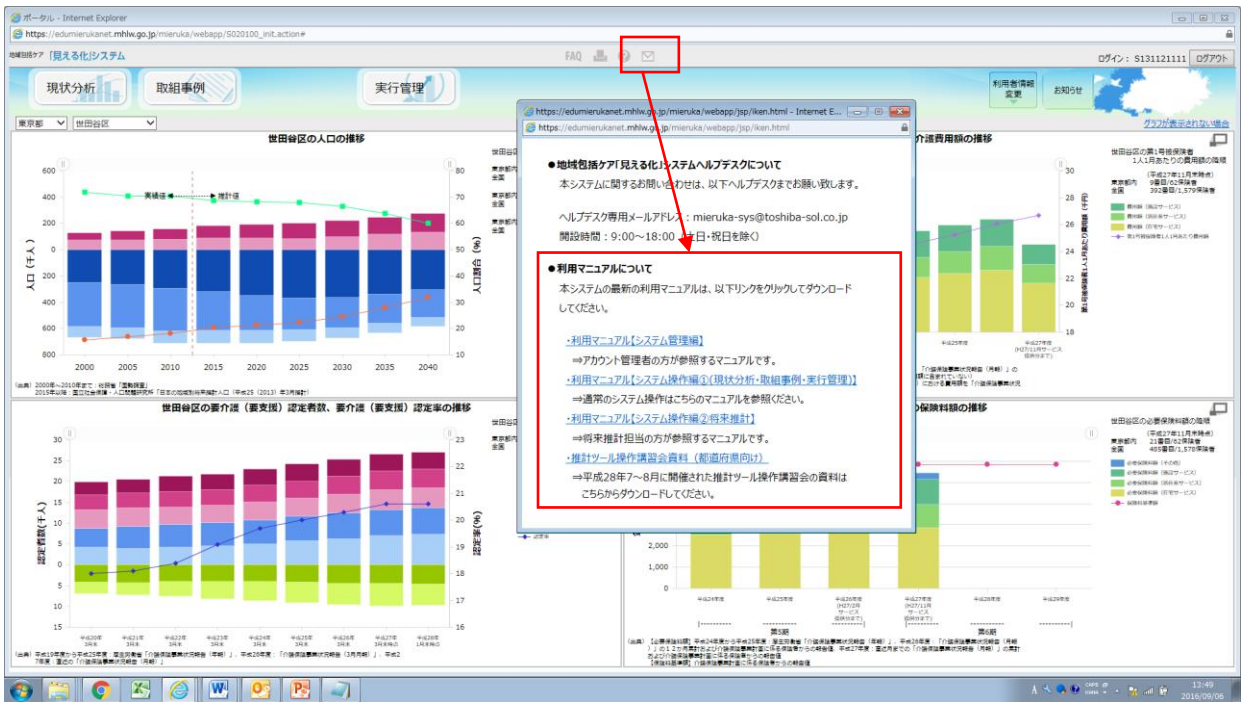
ログインの際は、必ず自治体職員用のアカウントでログインをしてください。一般国民のアカウントでログインすると、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果登録ボタンは表示されません。必ず大文字の「S」から始まるIDの自治体職員用のアカウントを取得してください。自治体職員用のアカウントの取得方法については、事務連絡「地域包括ケア「見える化」システムのアカウント取得のための解凍パスワード配布に関するご依頼」(平成27年7月24日)をご確認の上、市町村内の「アカウント管理者」にアカウント発行を依頼してください。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果を登録するためには、以下の2つの作業について完了していることが必要となります。

- ①日常生活圏域の設定
- ②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査設計情報の登録

①日常生活圏域の設定は、自治体職員用のアカウントのうち、「見える化『主担当』」の権限の付与されたアカウントでログインをしないと実行できません。市町村内の「アカウント管理者」に「見える化『主担当』」の権限付与を依頼してください。権限付与については、利用マニュアル【システム管理編】_2章のK2-4ページ以降を参照してください。なお、「見える化」システム上の日常生活圏域設定と、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の標本設計時の層分けに用いる日常生活圏域は、一致している必要がありますので、日常生活圏域の設定は、必ず調査設計時に行ってください。

※利用マニュアルは、「見える化」システム上部にあるメールマークのアイコンをクリックすると表示されるポップアップ画面から、取得ができます。



②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査設計情報の登録は、自治体職員用の全てのアカウントから実施可能です。地域包括ケア「見える化」システムへログインすると最初に表示される「ポータル」画面の「初期設定」からメニューを選択し、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査設計の各種項目を入力してください。

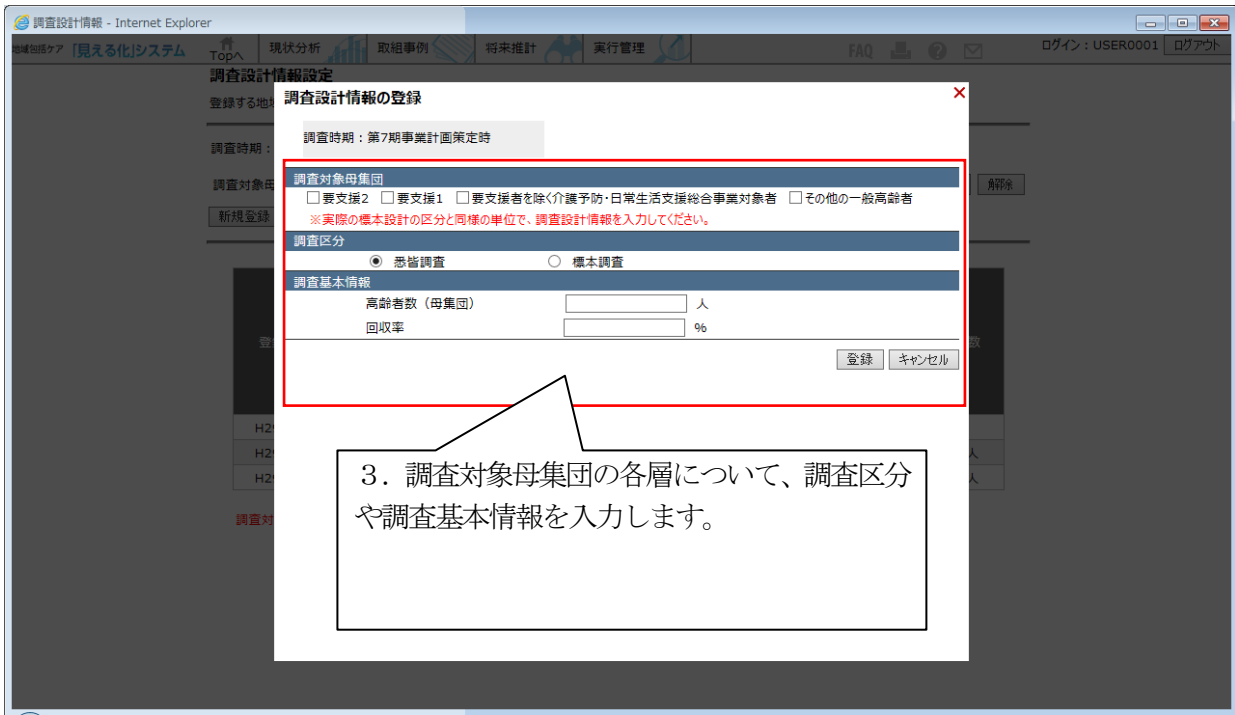
調査設計については、まず調査対象を「要支援2/要支援1/介護予防・日常生活支援総合事業対象者/その他の一般高齢者」から実態に応じて選択し、それぞれについて「調査区分」「標本抽出区分」「高齢者数(母集団)」「標本数」を入力します。

1. 調査対象とした母集団をチェックし、「設定」ボタンを押します。

2. 新規登録ボタンを押します

登録年月	調査対象母集団				調査区分	標本抽出区分	高齢者数(母集団)	標本数
	要支援2	要支援1	要支援者を除く介護予防・日常生活支援総合事業対象者	その他の一般高齢者				
H29/4/30	○	-	-	-	悉皆調査	-	500人	-
H29/4/30	-	○	-	-	標本調査	単純無作為抽出法	700人	500人
H29/4/30	-	-	○	-	標本調査	層化無作為抽出法	800人	500人

調査対象母集団(その他の一般高齢者)が未登録です。

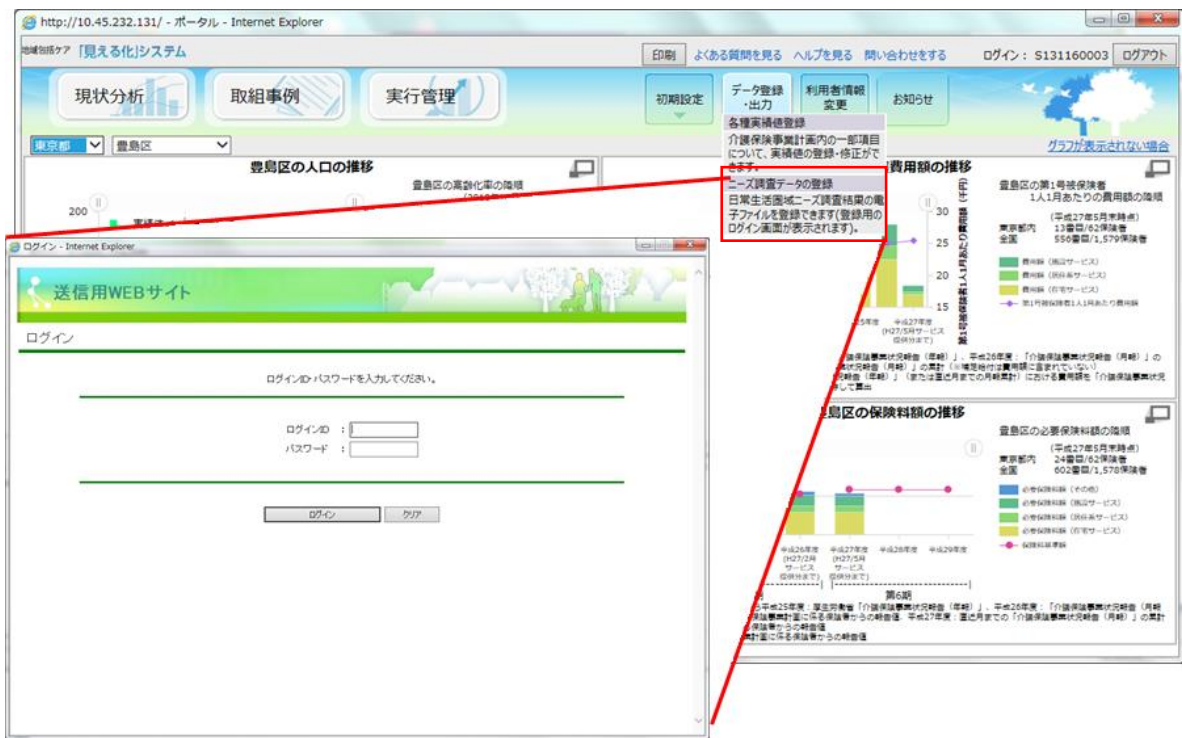


①および②が完了した後、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果のデータ登録が可能になります。

(2) 地域包括ケア「見える化」システムを経由した調査結果登録

地域包括ケア「見える化」システムへログインすると最初に表示される「ポータル」画面の上部にある、「データ登録・出力」のボタンから「ニーズ調査データの登録」をクリックしてください。





自動的に下記の地域診断支援情報送信ソフトのログイン画面が開きますので、別途配布されている地域診断支援情報送信ソフトのアカウント情報を入力し、ログインしてください。地域診断支援情報送信ソフトのアカウント情報および詳細な利用方法については、厚生労働省から別途各市町村宛てに送付がされますので、適宜確認してください。





地域包括ケア「見える化」システムに調査結果のデータを登録する場合は、その旨を個人情報の利用目的の中で、調査に回答する高齢者に対して提示することが必要です。参考資料1および2の調査票の表紙裏面に記入例が書かれていますので、回答する高齢者の属性を考慮し、適宜周知してください。

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- ・この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、市町村による介護保険事業計画策定と効果評価の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、市町村内で適切に管理いたします。
- ・ただし、介護保険事業計画策定時および効果評価時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

参考資料

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
調査票（必須項目）

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。
なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、市町村による介護保険事業計画策定と効果評価の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、市町村内で適切に管理いたします。
- ただし、介護保険事業計画策定時および効果評価時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

1. 大変苦しい
2. やや苦しい
3. ふつう
4. ややゆとりがある
5. 大変ゆとりがある

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

1. とても減っている 2. 減っている
3. あまり減っていない 4. 減っていない

問3 食べることについて

(1) 身長・体重

身長 cm

体重 kg

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

1. はい 2. いいえ

(3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

(4) どなたかと食事をとにもする機会がありますか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか

1. はい 2. いいえ

(2) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 自分で食事の用意をしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(5) 自分で請求書の支払いをしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（老人クラブ・町内会・自治会の活動をのぞきます）※① - ④それぞれに回答してください

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループや クラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

問6**たすけあいについて**

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

とても不幸										とても幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

(5) タバコは吸っていますか

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

(6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

- | | | |
|--|---|---|
| 1. ない | 2. 高血圧 | 3. <small>のうそっちゅう</small> 脳卒中 (<small>のうしゅっけつ・のうこうそく</small> 脳出血・脳梗塞等) |
| 4. 心臓病 | 5. <small>とうにようびょう</small> 糖尿病 | 6. <small>こうしけっしょう</small> 高脂血症 (<small>ししつじょう</small> 脂質異常) |
| 7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等) | 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | |
| 9. <small>じんぞう</small> 腎臓・ <small>ぜんりつせん</small> 前立腺の病気 | 10. <small>きんこつかく</small> 筋骨格の病気 (<small>こつそ</small> 骨粗しょう症、 <small>ししょう</small> 関節症等) | |
| 11. <small>がいしょう</small> 外傷 (<small>てんとう</small> 転倒・ <small>こっせつ</small> 骨折等) | 12. がん (新生物) | 13. <small>めんえき</small> 血液・免疫の病気 |
| 14. うつ病 | 15. <small>にんちしょう</small> 認知症 (アルツハイマー病等) | 16. パーキンソン病 |
| 17. 目の病気 | 18. 耳の病気 | 19. その他 () |

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
調査票（必須項目+オプション項目）

第 7 期

(宛名ラベル)

郵送・訪問

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【調査票 (必須項目+オプション項目)】

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて、
____月 ____日()までに投函してください。

記 入 日	平 成	年	月	日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. ご家族が記入				
(あて名のご本人からみた続柄)				
3. その他				

_____(市・町・村) _____課

_____係

_____圏域

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、市町村による介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、市町村内で適切に管理いたします。
- ただし、介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

※ : 必須項目、 : オプション項目

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

1. のうそっちゅう 脳卒中 (のうしゅつけつ・のうこうそく 脳出血・脳梗塞等)
2. 心臓病
3. がん(悪性新生物)
4. 呼吸器の病気 (はいきしゅ 肺気腫・肺炎等)
5. 関節の病気(リウマチ等)
6. にんちしょう 認知症(アルツハイマー病等)
7. パーキンソン病
8. とうりょうびょう 糖尿病
9. 腎疾患(透析)
10. しかく 視覚・ ちようかくしやうがい 聴覚障害
11. こっせつ 骨折・ てんとう 転倒
12. せきついそんしょう 脊椎損傷
13. 高齢による すいじゃく 衰弱
14. その他 ()
15. 不明

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

②主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

1. 配偶者(夫・妻)
2. 息子
3. 娘
4. 子の配偶者
5. 孫
6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー
8. その他 ()

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう
4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

1. 持家（一戸建て） 2. 持家（集合住宅）
3. こうえいちんたいじゅうたく 公営賃貸住宅 4. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（一戸建て）
5. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（集合住宅） 6. 借家
7. その他

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

1. とても減っている 2. 減っている
3. あまり減っていない 4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか

1. はい 2. いいえ

【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)

1. 病気 2. 障害(脳卒中^{しょうがい のうそっちゅう}の後遺症^{こういしょう}など)
3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配(失禁など)
5. 耳の障害(聞こえの問題など) 6. 目の障害
7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない
9. 交通手段がない 10. その他 ()

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

①噛み合わせは良いですか

1. はい 2. いいえ

②【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、
かつ入れ歯を利用」の方のみ】 毎日入れ歯の手入れをしていますか

1. はい 2. いいえ

(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

1. はい 2. いいえ

(8) どなたかと食事をとる機会がありますか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか

1. はい 2. いいえ

(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

1. はい 2. いいえ

(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか		
1. はい	2. いいえ	
(4) バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(6) 自分で食事の用意をしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(9) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか		
1. はい	2. いいえ	
(10) 新聞を読んでいますか		
1. はい	2. いいえ	
(11) 本や雑誌を読んでいますか		
1. はい	2. いいえ	

(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか

1. はい

2. いいえ

(13) 友人の家を訪ねていますか

1. はい

2. いいえ

(14) 家族や友人の相談にのっていますか

1. はい

2. いいえ

(15) 病人を見舞うことができますか

1. はい

2. いいえ

(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

1. はい

2. いいえ

(17) 趣味はありますか

1. 趣味あり

—————→ ()

2. 思いつかない

(18) 生きがいがありますか

1. 生きがいあり

—————→ ()

2. 思いつかない

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
 ※① - ⑦それぞれに回答してください

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループや クラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑥ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑦ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

問6**たすけあいについて**

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(いくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 自治会・町内会・老人クラブ | 2. 社会福祉協議会・民生委員 |
| 3. ケアマネジャー | 4. 医師・歯科医師・看護師 |
| 5. 地域包括支援センター・役所・役場 | 6. その他 |
| 7. そのような人はいない | |

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 毎日ある | 2. 週に何度かある | 3. 月に何度かある |
| 4. 年に何度かある | 5. ほとんどない | |

(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。
同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1. 0人(いない) | 2. 1~2人 | 3. 3~5人 |
| 4. 6~9人 | 5. 10人以上 | |

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1. 近所・同じ地域の人 | 2. 幼なじみ | 3. 学生時代の友人 |
| 4. 仕事での同僚・元同僚 | 5. 趣味や関心が同じ友人 | |
| 6. ボランティア等の活動での友人 | | |
| 7. その他 | 8. いない | |

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

とても不幸										とても幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

(5) お酒は飲みますか

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない
4. もともと飲まない

(6) タバコは吸っていますか

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

1. ない
2. 高血圧
3. のうそっちゅう 脳卒中 (のうしゅつけつ・のうこうそくなど 脳出血・脳梗塞等)
4. 心臓病
5. とうにようびょう 糖尿病
6. こうしけっしょう 高脂血症 (ししつじょう 脂質異常)
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. じんぞう 腎臓・ぜんりつせん 前立腺の病気
10. きんこつかく 筋骨格の病気 (こつそ 骨粗しょう症、ししょう 関節症等)
11. がいしょう 外傷 (てんとう 転倒・こっせつなど 骨折等)
12. がん (悪性新生物)
13. めんえき 血液・免疫の病気
14. うつ病
15. にんちしょう 認知症 (アルツハイマー病等)
16. パーキンソン病
17. 目の病気
18. 耳の病気
19. その他 ()

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
調査票（オプション項目の設問の意図）

問1

あなたのご家族や生活状況について

No.	設問内容	選択肢	設問の意図
(2)	①【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (いくつでも)	1. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) 2. 心臓病 3. がん (悪性新生物) 4. 呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等) 5. 関節の病気 (リウマチ等) 6. 認知症(アルツハイマー病等) 7. パーキンソン病 8. 糖尿病 9. 腎疾患 (透析) 10. 視覚・聴覚障害 11. 骨折・転倒 12. 脊椎損傷 13. 高齢による衰弱 14. その他 () 15. 不明	この設問は、介護・介助が必要になった原因を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の介護・介助が必要になった原因を把握することにより、地域課題 (要介護状態になる原因) の把握が可能になります。
(2)	②【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】 主にどなたの介護・介助を受けていますか	1. 配偶者(夫・妻) 2. 息子 3. 娘 4. 子の配偶者 5. 孫 6. 兄弟・姉妹 7. 介護サービスのヘルパー 8. その他 ()	この設問は、介助者の詳細を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の介護・介助の実態を把握することにより、地域課題 (家族介護の実態) の把握が可能になります。
(4)	お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか	1. 持家 (一戸建て) 2. 持家 (集合住宅) 3. 公営賃貸住宅 4. 民間賃貸住宅 (一戸建て) 5. 民間賃貸住宅 (集合住宅) 6. 借家 7. その他	この設問は、住宅の形態を問う設問です。地域の高齢者の住まい (サービス付き高齢者向け住宅など) のニーズ把握・サービス整備の検討の際に活用することが可能になります。

問2

からだを動かすことについて

No.	設問内容	選択肢	設問の意図
(8)	外出を控えていますか	1. はい 2. いいえ	この設問は、外出を控えている場合の原因を問う設問です。閉じこもり傾向のある高齢者の原因を把握することにより、地域課題 (閉じこもり傾向のある高齢者に不足している対策) の把握が可能になります。
(8)	①【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】 外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)	1. 病気 2. 障害(脳卒中の後遺症など) 3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配(失禁など) 5. 耳の障害 (聞こえの問題など) 6. 目の障害 7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない 9. 交通手段がない 10. その他 ()	

(9)	外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）	1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車（自分で運転） 5. 自動車（人に乗せてもらう） 6. 電車 7. 路線バス 8. 病院や施設のバス 9. 車いす 10. 電動車いす（カート） 11. 歩行器・シルバーカー 12. タクシー 13. その他（ ）	この設問は、外出の際の移動手段を問う設問です。高齢者の外出の際の移動手段の実態を把握することにより、地域課題（移動手段上の課題）の把握が可能になります。
-----	------------------------	---	--

問3 食べることについて			
No.	設問内容	選択肢	設問の意図
(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ	(3) は、嚥下機能の低下を把握する設問、(4) は肺炎発症リスクを把握する設問です。必須項目にある設問のうち、咀嚼機能の低下を把握する「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」も併せて確認し、3設問のうち2設問に該当した場合は、口腔機能の低下している高齢者になります。口腔機能が低下している高齢者の地域分布を把握することは、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。
(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ	
(5)	歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか	1. はい 2. いいえ	この設問は、口腔ケアに問う設問です。日常の口腔ケアの状況を把握することにより口腔に関する地域課題の把握が可能になります。
(6)	①噛み合わせは良いですか	1. はい 2. いいえ	この設問は、咬合状態・義歯の管理を問う設問です。咀嚼機能や口腔衛生の状況を把握することにより、口腔に関する地域課題の把握が可能になります。
(6)	②【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】 毎日入れ歯の手入れをしていますか	1. はい 2. いいえ	
(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ	この設問は、低栄養の傾向を問う設問です。低栄養の傾向のある高齢者の地域分布を把握することは、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

問4		毎日の生活について	
No.	設問内容	選択肢	設問の意図
(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	1. はい 2. いいえ	この設問は、認知機能の低下を問う設問です。認知機能が低下している高齢者の地域分布を把握することは、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。
(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい 2. いいえ	
(9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	1. はい 2. いいえ	
(10)	新聞を読んでいますか	1. はい 2. いいえ	この設問は、老研式活動能力指標に基づく知的能動性の低下を問う設問です。本指標が低下している高齢者の地域分布を把握することは、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。
(11)	本や雑誌を読んでいますか	1. はい 2. いいえ	
(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい 2. いいえ	
(13)	友人の家を訪ねていますか	1. はい 2. いいえ	
(14)	家族や友人の相談にのっていますか	1. はい 2. いいえ	この設問は、他者との関わりについて問う設問です。地域課題（他者との関わりの低さ）の把握が可能となります。
(15)	病人を見舞うことができますか	1. はい 2. いいえ	
(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい 2. いいえ	
(17)	趣味はありますか	1. 趣味あり→ () 2. 思いつかない	
(18)	生きがいがありますか	1. 生きがいあり→ () 2. 思いつかない	この設問は、趣味・生きがいを問う設問です。本項目と社会参加の関係性を把握することにより、社会参加する高齢者の傾向の把握が可能になります。

問5		地域での活動について	
No.	設問内容	選択肢	設問の意図
(11)	以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか ⑤老人クラブ ⑥町内会・自治会 ⑦収入のある仕事	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない	この設問は、高齢者の社会参加の状況や就業状況を問う設問です。地域資源（要介護状態になる前の高齢者の就業状況）の把握が可能となります。

問6

たすけあいについて

No.	設問内容	選択肢	設問の意図
(5)	家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自治会・町内会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネジャー 4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・役所・役場 6. その他 7. そのような人はいない 	この設問は、地域の相談経路を問う設問です。地域の相談窓口の活用状況を把握することが可能となります。
(6)	友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある 5. ほとんどない 	この設問は、友人関係を問う設問です。事業を展開したことにより、地域でのつながりがどの程度増えたかをモニタリングすることが可能となります。
(7)	この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 0人（いない） 2. 1～2人 3. 3～5人 4. 6～9人 5. 10人以上 	
(8)	よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚 5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない 	

問7

健康について

NO	設問内容	選択肢	設問の意図
(5)	お酒は飲みますか	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない 	この設問は、飲酒の習慣を問う設問です。高齢者の健康寿命に影響を与えると考えられる本項目と他項目の関係性を把握することにより、地域の高齢者の特性把握が可能になります。

【本手引きの問い合わせ先】

厚生労働省

TEL : 03-5253-1111 (代表)

(介護保険事業計画に関すること)

厚生労働省老健局介護保険計画課 (内線 2175)

FAX : 03-3503-2167

(調査項目、調査方法および地域包括ケア「見える化」システムへのデータ送付方法に関すること)

厚生労働省老健局老人保健課 (内線 3947)

FAX : 03-3595-4010

(介護予防・日常生活支援総合事業に関すること)

厚生労働省老健局振興課 (内線 3982)

FAX : 03-3503-7894

ご要望はこちらへ → needs-cyousa@mhlw.go.jp